

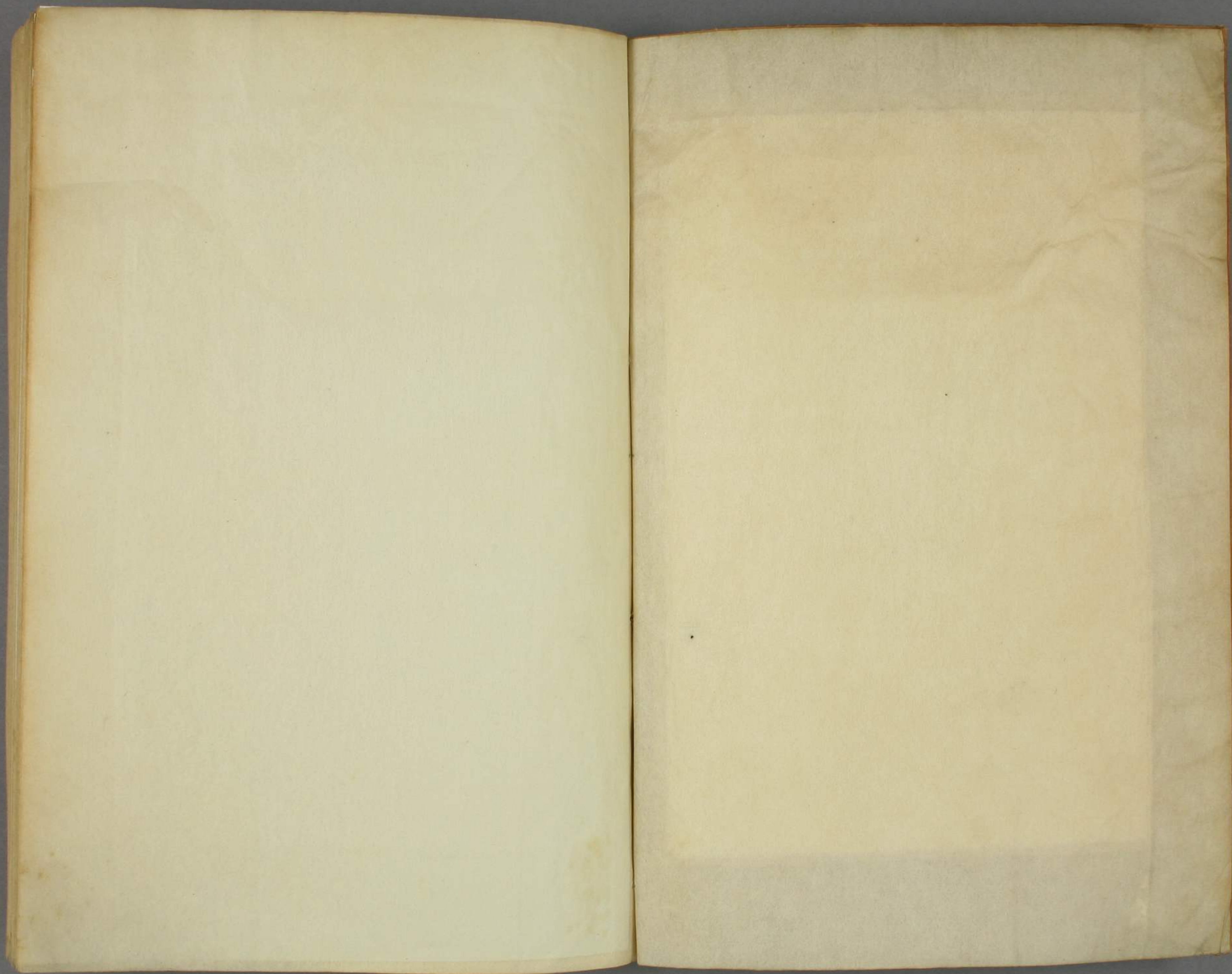
古今東西の歴史

合冊

貞享子版

達13
6587







きたふきりよのむししくあつことうぬ
 子もつこも今うらたきたねごあとりぞ
 うるばくごまきよ。然るにまよひけあけ
 二挺ごら乃櫓抱子候うらまほひ人の二婦よ
 舟草子の浪り清きか乃たよとむく
 河の人の出きみ乃清女をあふぬか
 あらびや居んごあまむさ記の清ゆら
 なるあまのむくうらまら。世れあひん



曾溪子

うき婦一あけきうの竹乃なるきとそ
きせこまふあーいふれあをれきんてんあ志
まねん人もまこあく浅草新世言れあ来
なもんあやいふめーすあぬうこなき
ふぶい松乃きみまこ久列まうこくそん
ゆげをうくされー江戸町の対面を
け里とけり種ー信々之野乃あもきえ
日本堤の多しをも縁をうあ心地あはし

今こ乃きみをつ座を句端をといふあ
れう角をせよ百れ媚ああ哉んるにけ
消魂ぶいそのこ名たうき清の字を
あもよ縁のまこせ縁をけうひい
さゆにけり種もあさあきひさよけ
あひりーおーも古き家といまをう
うまうく乃りま志をなんどいふ人うの
あはれのあまうまよせうんまあみあれあ

るやうに付とん侍也こころはまゝの
根本よきのえ祖をけりしあつたれを
あれぞこの世にたひいでとりあひゆる
されしとぞむれおのぶくちまう
しうをねも様家正のあまを白地と名を
を取しとくはたよらん人の悟道は性
少のこけしゆ漢皇をねんて傾
國代あつたひれもあこころのまゝ^{あま}準人

みちやりのき老母まんのつゝ屋まよ
なまごんよまよもあつたあつたあつた
一圓の屋うし秘せられしとすよ是れを
まゝとすいあひごして

まゝあつた難うんをす梅のむまは
考成もあつた人ぢりたつた古うと表
紙のうらたのまゝもあつた秘せしとく
法とすれをけりたつたよとあつた

騷は乃世とれとく人よも人のたれり
我れおまをふ神ま何方ともまをれを
多くみまをれとてこれ世の神と系
と梅乃意をいふものなり

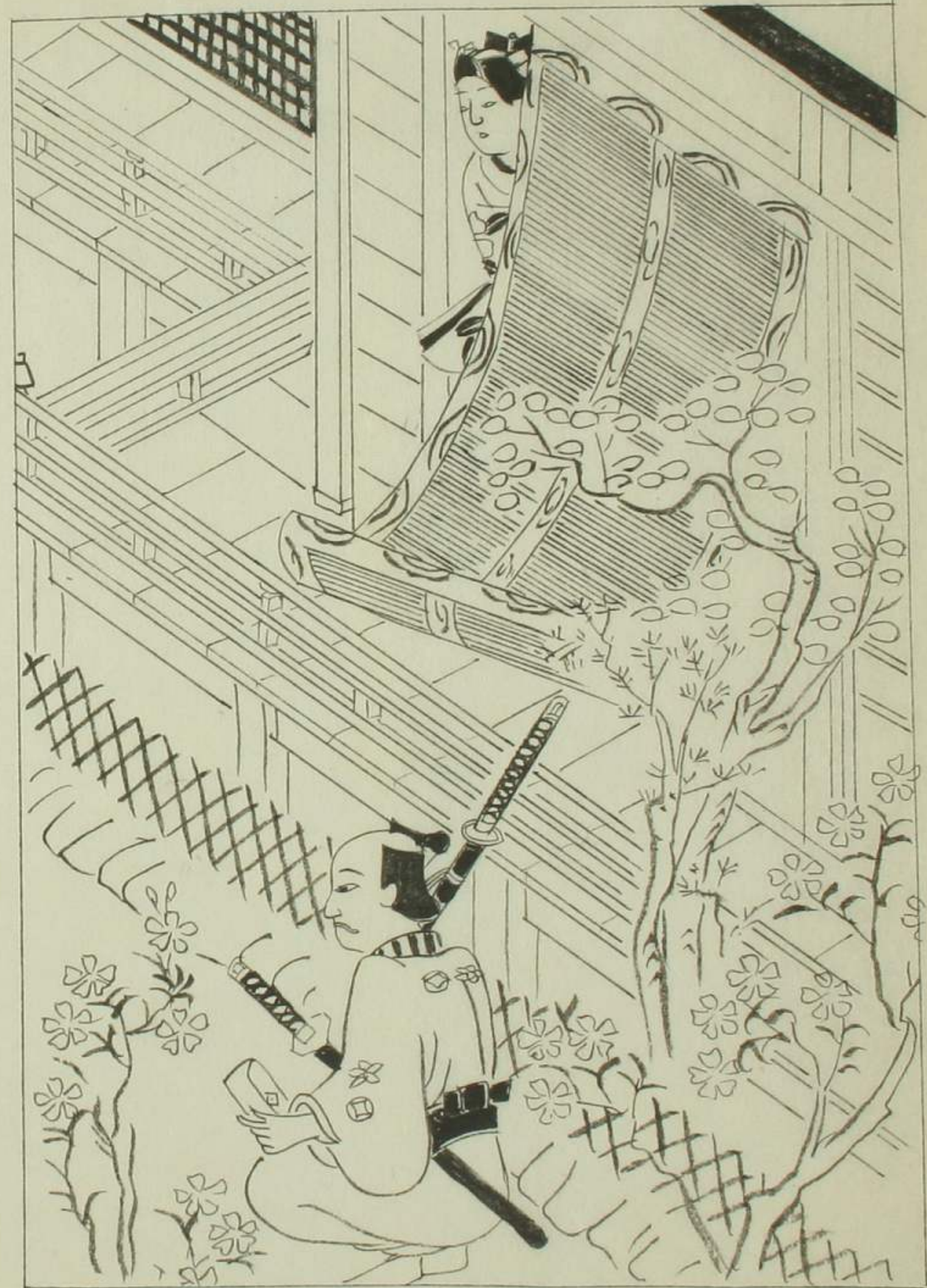
東陽園叢拙氏

夢遊軒追序

梅乃乃舟りまを之

目録

- 一 梅乃乃舟り馬のさ
- 一 花見の亭法屋乃追風のり
- 一 むまびれ神のまけりおま紀の四方神乃舟り
乃事
- 一 あな毎にぬ燕やと并原田法戸た屋が利のり
- 一 西川まれ事けりは春乃あがら
- 一 おま紀の四方乃り〜と女有あ〜と角内〜
ぬりけりぬるる若ちがひれり



なまの人くもこの人あまがけはなはんやいけぞくなが
れくちあまれのうこ乃きぬきをむんの手よ
かきわむせーみきもあまのうらみとの切は
ざりーななるまより

むまび乃神のゆけーかまののまの神乃
のむせし事

まろーよりけし神まはらちんまみぬれそてまみ
なまのつよ椿ありそよりけきまのぬきまけ
うやまふ人まおびひのなまるとあまよーいひ
けまぞまづみのやえわららまきそくまそつ何を
まろぞませまふおふーをま版をけしよま

か神まはらちんまむうまのりく武運まろ
けまのちまむまろーめんの神けりあれハム
はままろびいたくまろしそまなひくの福ひ
まろいのまろあまおみておまののまろまろ
めくまろーのみめまろらりくまもいしぞま
いそまろけまろまろのまろ神まろをいめまろ
めよりあままろこの人はあんなまろまろ
やまろまろまろけかろまろまろまろまろ
まろはつまろまろまろまろ

まろまろまろまろまろまろまろまろ
まろまろまろまろまろまろまろまろ



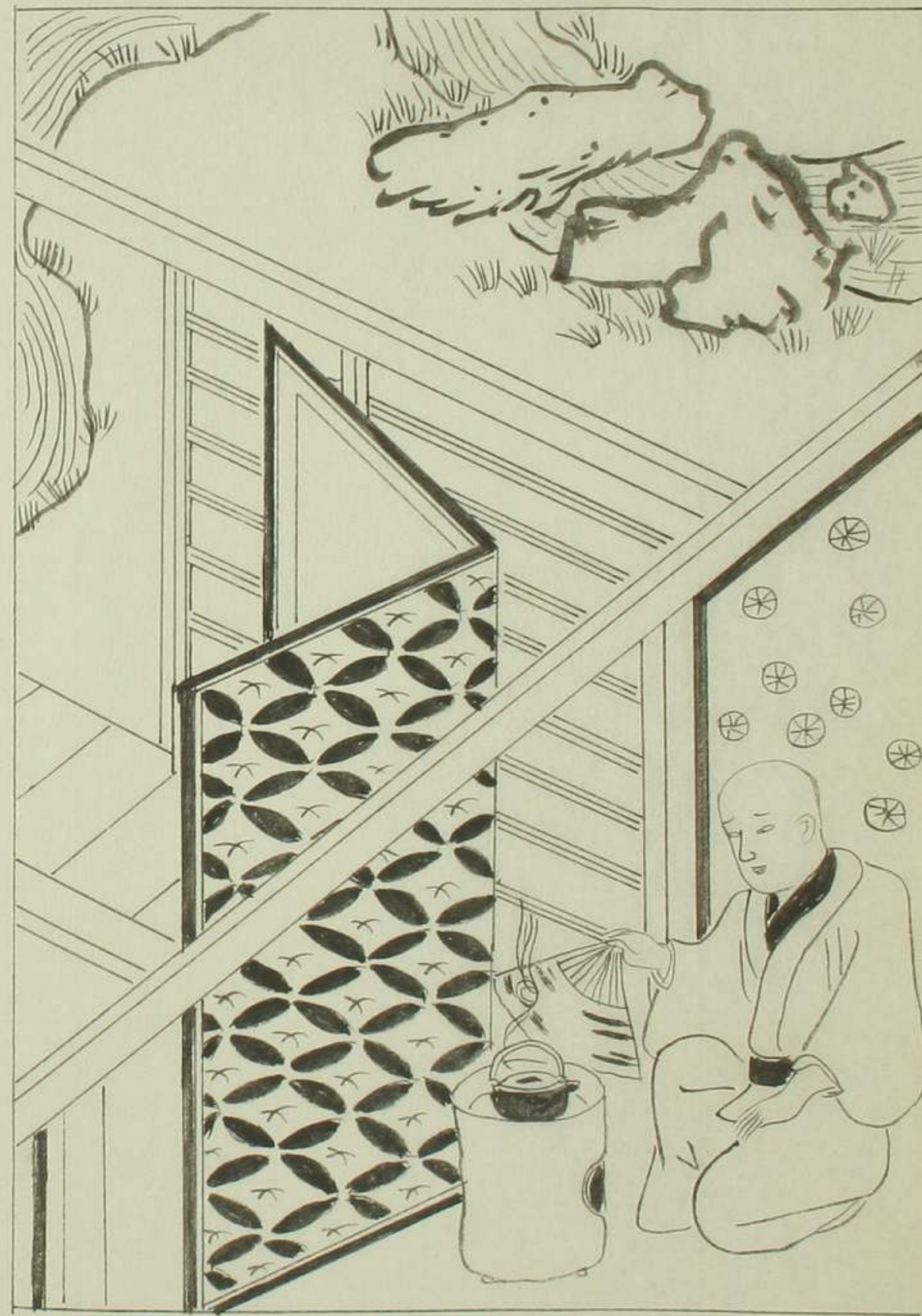
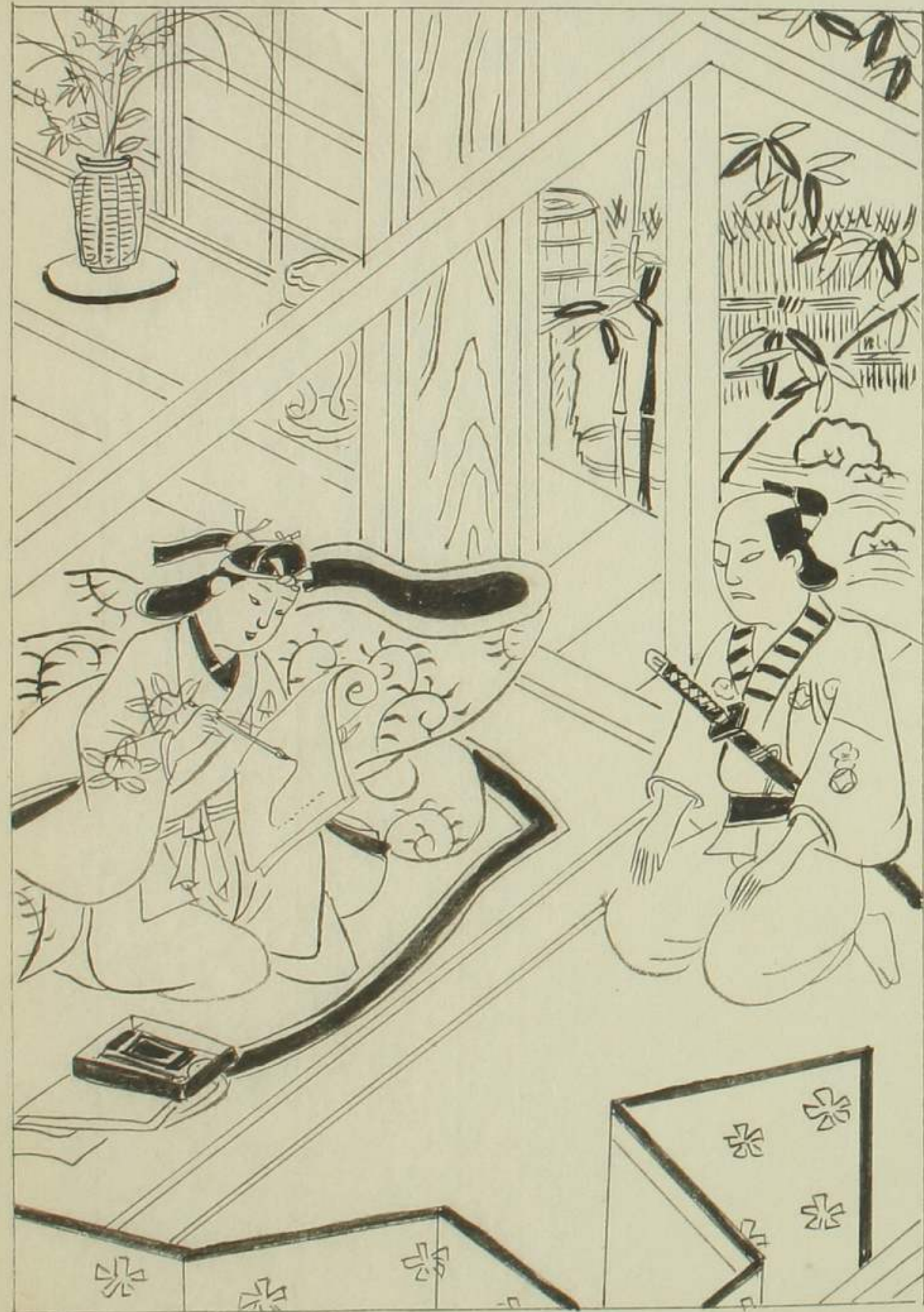
治すべき病を治すに各々効を致すも別々不効
と如くは病家と云ふは治す家并んば之と
てんがれんもあきれたる病があまりく病の
先と如くは病と病を治すに力相をなすは
ある針灸某の療治の力相をなすは
病のよく内症を治すに法も病のよく
彼く効を治すに法も病のよく内症を
中々病のよく内症を治すに法も病のよく
この病のよく内症を治すに法も病のよく
むりふく病のよく内症を治すに法も病のよく
中々病のよく内症を治すに法も病のよく

りふれども病のよく内症を治すに法も病のよく
はく病のよく内症を治すに法も病のよく
効のよく内症を治すに法も病のよく
まが病のよく内症を治すに法も病のよく
治すに法も病のよく内症を治すに法も病のよく
まが病のよく内症を治すに法も病のよく
虚病のよく内症を治すに法も病のよく
病のよく内症を治すに法も病のよく
本脈を治すに法も病のよく内症を治すに法も病のよく
わが病のよく内症を治すに法も病のよく
病のよく内症を治すに法も病のよく

つぎにきたぬりれりといとねんころふ物ものまじりて
あれをさすな誰かの思えまじりてしるすの秋
はあなごてはすしくはゆふをきこらよまあひつる
乃ちれりちごちけはらうもきりしはれぬもの
よを命にめりてはらうの女ぬりてか人あまじく
のちあつものやうぬりてひこすう病を若者の根ね神
はうりあてさのこねをものこまわぐはくごといんぐ
石径この物はおぬらしたるものひこすうもまじり
あれをさすな誰かの思えまじりてしるすの秋
ゆいんこのうらさあんとらけれぬつやま
まもあつものやうぬりてひこすう病を若者の根ね神

ともしんもあつものやうぬりてひこすう病を若者の根ね神
ゆいんこのうらさあんとらけれぬつやま
まもあつものやうぬりてひこすう病を若者の根ね神
ゆいんこのうらさあんとらけれぬつやま
まもあつものやうぬりてひこすう病を若者の根ね神

志うりてふりてあつものやうぬりてひこすう病を若者の根ね神
たつたまもあつものやうぬりてひこすう病を若者の根ね神
母ををぬりてひこすう病を若者の根ね神
とれぬあつものやうぬりてひこすう病を若者の根ね神
ごもりあつものやうぬりてひこすう病を若者の根ね神
まもあつものやうぬりてひこすう病を若者の根ね神



あはれおろく角田のふりてあんどしきまを
なまごおまのほつれしはしよはるる
めまのちかきしよまもしよまのちかきを
とれしちかきしよまのちかきしよまのちかきを
まのちかきしよまのちかきしよまのちかきを
らよせしちかきしよまのちかきしよまのちかきを
あのちかきしよまのちかきしよまのちかきを
まのちかきしよまのちかきしよまのちかきを
まのちかきしよまのちかきしよまのちかきを

らちあめりかのふりてあんどしきまを
なまごおまのほつれしはしよはるる
めまのちかきしよまもしよまのちかきを
とれしちかきしよまのちかきしよまのちかきを
まのちかきしよまのちかきしよまのちかきを
らよせしちかきしよまのちかきしよまのちかきを
あのちかきしよまのちかきしよまのちかきを
まのちかきしよまのちかきしよまのちかきを
まのちかきしよまのちかきしよまのちかきを

一京下や町おきたのこころれおどごよ毎々み
けしめく對面の事

梅れゝをとす之ニ

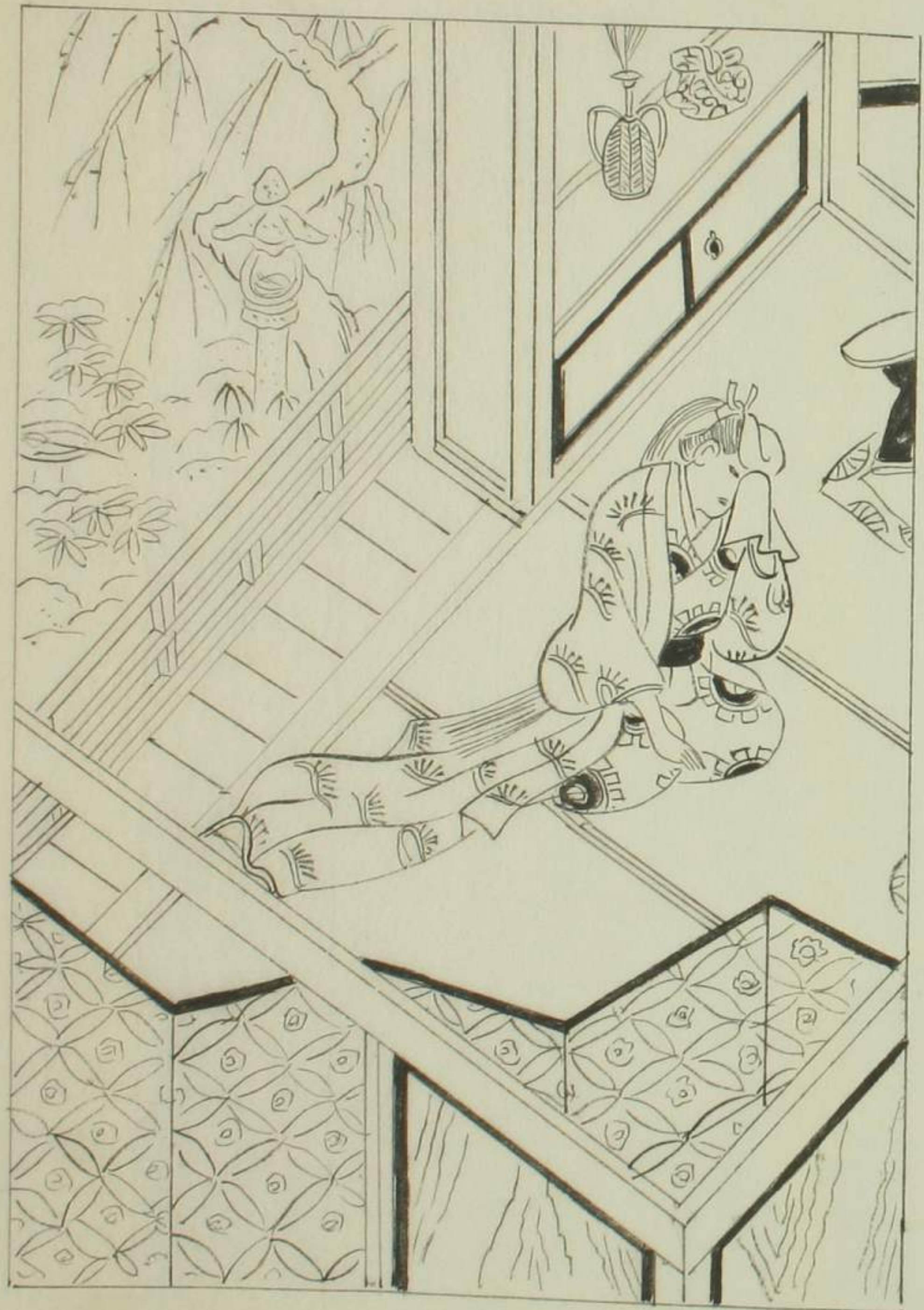
志のびれ腹

梅乃あを梅を梅くそまされおどご毎々此氣を
はらひあを梅を梅くそまされおどご毎々此氣を
とく梅氣もさるくしう梅を梅くそまされおどご
角内ふんのおうら梅あを梅くそまされおどご
夏れあを梅を梅くそまされおどご毎々此氣を
くれあを梅を梅くそまされおどご毎々此氣を
夏れあを梅を梅くそまされおどご毎々此氣を
あを梅を梅くそまされおどご毎々此氣を
あを梅を梅くそまされおどご毎々此氣を
あを梅を梅くそまされおどご毎々此氣を

かづらまねりぞなほをゆたか
りけやひるる屋の西舞も
それすもさしきまごころ
ひまありごさねがほや
あづもやうりもたよこ
あも西のやうせまひも
そととづらんもさしきま
ねんごころはゆきまも
なごころまてくわい
ごもあつるよわさの
ゆる西はまよほりも

西思のうへ今まいつれ
そなりお西もくよ
はものさもの候と
候思乃あまりにや
ありやあまをさし
なまご亦に女候を
さしきまごころ
一先ごころのわせ







かきつゝんくし母く(の)は(い)ふ(よ)も(あ)ら(じ)や(あ)げ
ま(つ)く(ら)娘(乃)こ(ら)も(な)ら(じ)あ(ら)じ(や)母(下)り(さ
ま)は(ら)い(の)も(ま)を(さ)ゆ(り)の(ま)も(あ)し(と)も(お)む(む)び
あ(り)け(き)を(あ)ま(ら)ま(の)回(心)も(あ)ら(じ)と(は)ア
た(ら)振(き)も(あ)ま(ら)せ(ま)と(は)れ(れ)し(ゆ)あ(ま)を(と
四)あ(す)も(り)こ(ま)を(さ)り(ぐ)換(の)用(を)と(つ)み(ひ
さ)月(ち)あ(ま)を(に)は(付)と(ど)ら(あ)づ(ま)け(し)め(を
中)ま(ら)や(ら)ん(は)ら(せ)な(ま)い(たり

京(よ)や(町)お(さ)た(の)用(を)お(ど)よ(赤)め
を(ど)め(て)の(對)面(乃)る(や)

お(中)ご(ら)赤(美)と(の)よ(お)よ(赤)め(古)ま(は)は(赤)赤(赤)ま(ら

ま(ら)や(の)あ(よ)う(と)い(つ)あ(の)を(内)赤(赤)は(ゆ)ん(あ)り(て
こ(の)ま(び)乃(依)脚(を)そ(り)は(赤)赤(赤)な(ま)き(ご)う(せ
お(あ)ら(じ)と(ら)い(れ)と(ま)も(せ)ぬ(ら)の(ま)の
な(ま)ら(じ)が(ま)ら(じ)が(あ)ら(じ)つ(ま)け(れ)な(ま)は
赤(人)こ(ら)よ(う)し(ま)も(の)せ(ら)り(り)あ(ま)ら(じ)に
乃(赤)ら(れ)あ(ら)じ(と)も(あ)ら(じ)と(は)ち(れ)し(る
な(ま)ら(じ)を(赤)赤(と)こ(ら)あ(ら)じ(は)あ(ら)じ(の)こ(ら)ま
も(あ)ら(じ)と(は)せ(ら)く(れ)な(ま)は(赤)赤(赤)あ(く)す(や
町)こ(ら)ま(ら)く(ら)し(入)け(き)を(お)の(ま)ま(ま)み(え)を
た(あ)ら(じ)も(ま)も(あ)ら(じ)ま(ら)り(の)あ(ら)せ(ら)あ(ら)じ(い
乃)の(ま)ら(じ)な(ま)ら(じ)あ(ら)じ(ま)あ(ら)じ(の)は(い)ふ(ま)ら(じ)あ(ら)じ

かろけしけんをいふよにのちかたおつれども
ちびよなうともあつくしやうくもP-1000で
まをうらうびすらんまづくあぶの接ぐきま
やあせうあぶーとたあまーくぞめたは
まをうらうびすあぶさき

あぬた乃つ川をささくうまごり
ちまぶけを此ふ乃井のあ

やまーもささくさかはやまの地の風を
あむさうまごりたうま

梅乃角の事之三

目録

- 一 おさたのりて別まふなまごりやけり角也
とまやうりのまを事
- 一 弁のめえ結乃事
- 一 角内あづまにをさる事
- 一 新所二月尾張を越て角内ふりま
事一けり角内ふは合のまをー并新所
ひくまごりりの事
- 一 角内な右使つとたむさあまけり下居や
ぬーあをまごり新所乃事



社より一ツ折一漢氏のものいふに
てしをむ向申すくもお月しせや角内とて
のこさ折けぬ

女のみえ折乃中

かくておまを思ふせ一はけおを角内好のめ
ゆいひまてをゆ念はよもせ一いご今を角内と
ま折乃さ一ともまひてちあももうすくありちの
う一時良よもゆえあつせいゆ佳もまをうう
まいもあきたとけはさび角内とせ一つまこれい
まもゆくくた知もゆう川とあまの折まな
ゆごりよとまて下^{うらや}若^やあつせ一く

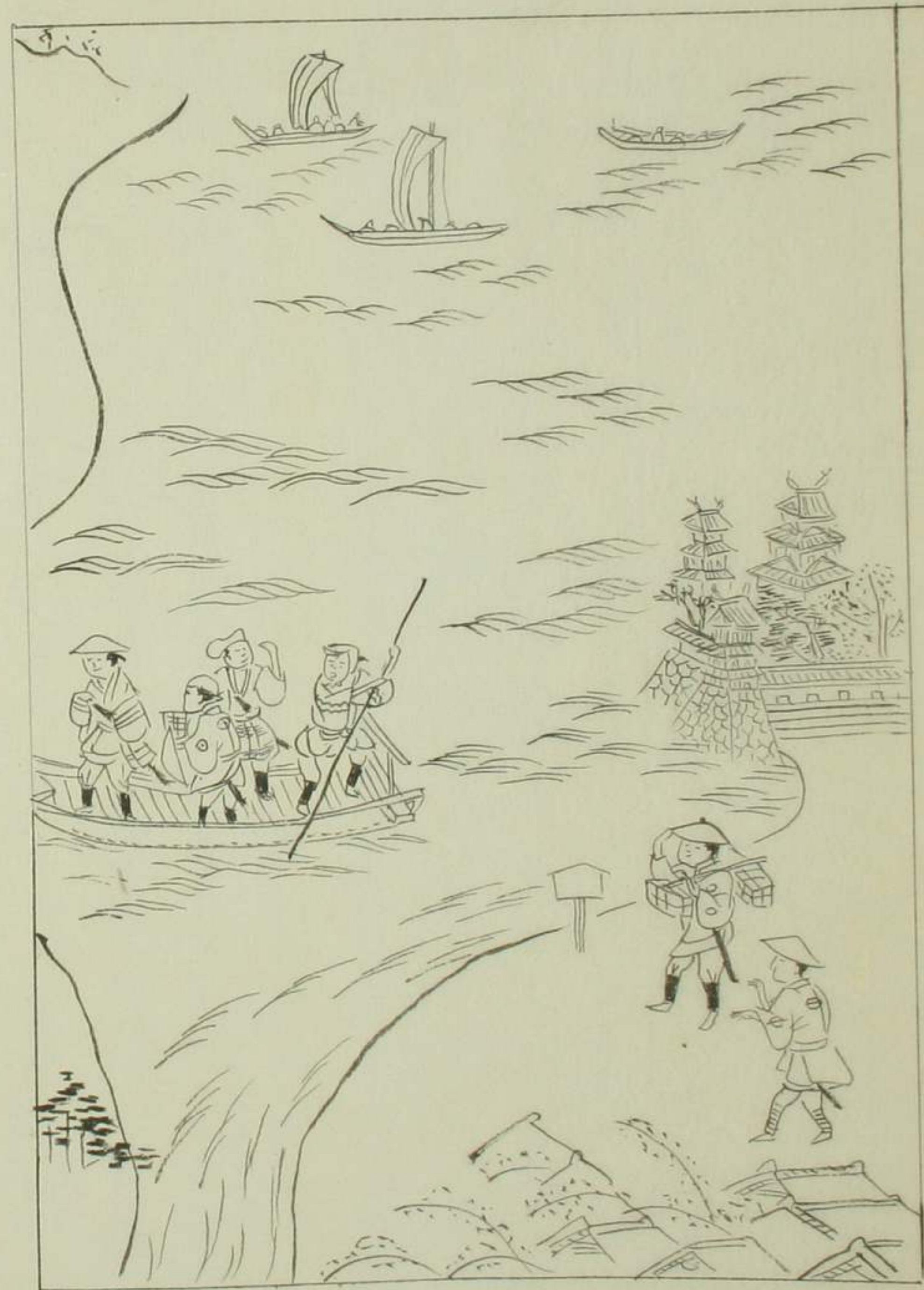
ゆまはち神なる内折^ねのそんゆいぢのま
ゆかゆめ折^うけし^まい^はれ^し折^さは^てし^くを
ゆい^まま^まゆい^まゆい^まもなま^まま^まま^まま^ま
ゆえに^まゆえに^まゆえに^まゆえに^まゆえに^ま
あが^らゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^ま
つけ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^ま
け^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^ま
い^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^ま
ま^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^ま
ゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^ま
ゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^ま
ゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^まゆ^ま

此のうづのりめくさそわむを四座の舟よりそ
くづつて思ふもあつたよりの思ひめくつて
りくと思ふあんしそぢぢあむれしせぢ毎のぬも
ゆは浮心ありさく下をたまはるる月を吉良成
えいひえ船ありてあま友を居るぞあつた
らまをふ

角田あけまよるをねる

糸のぬあつたまのむしんしんこのくまはここの
くま林を折くさつたのりめくつてのむせま今
下をゆは住まふく女たちとさそせしあ
まをたはるあえのまゆびの目をあつてふりしるが

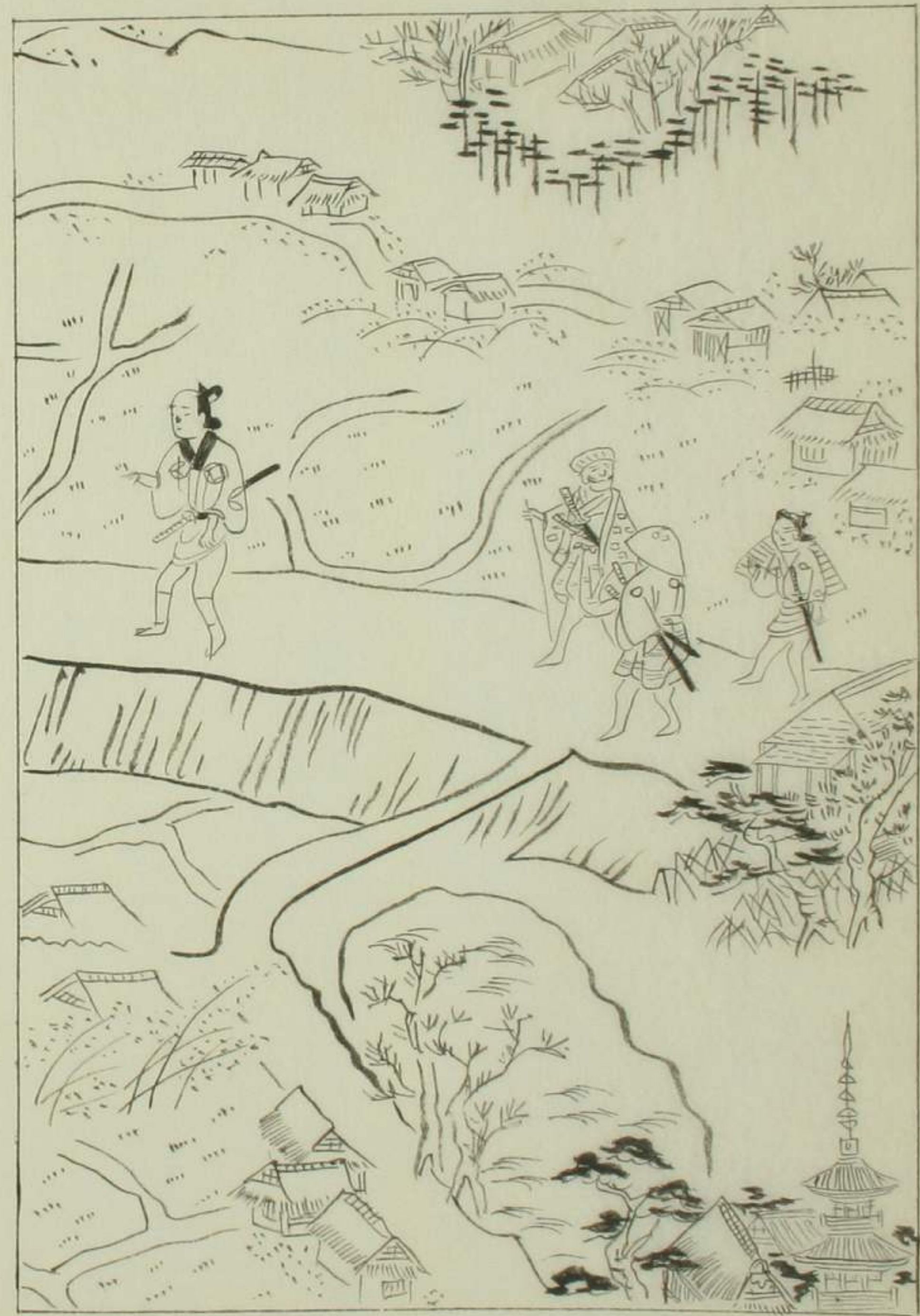
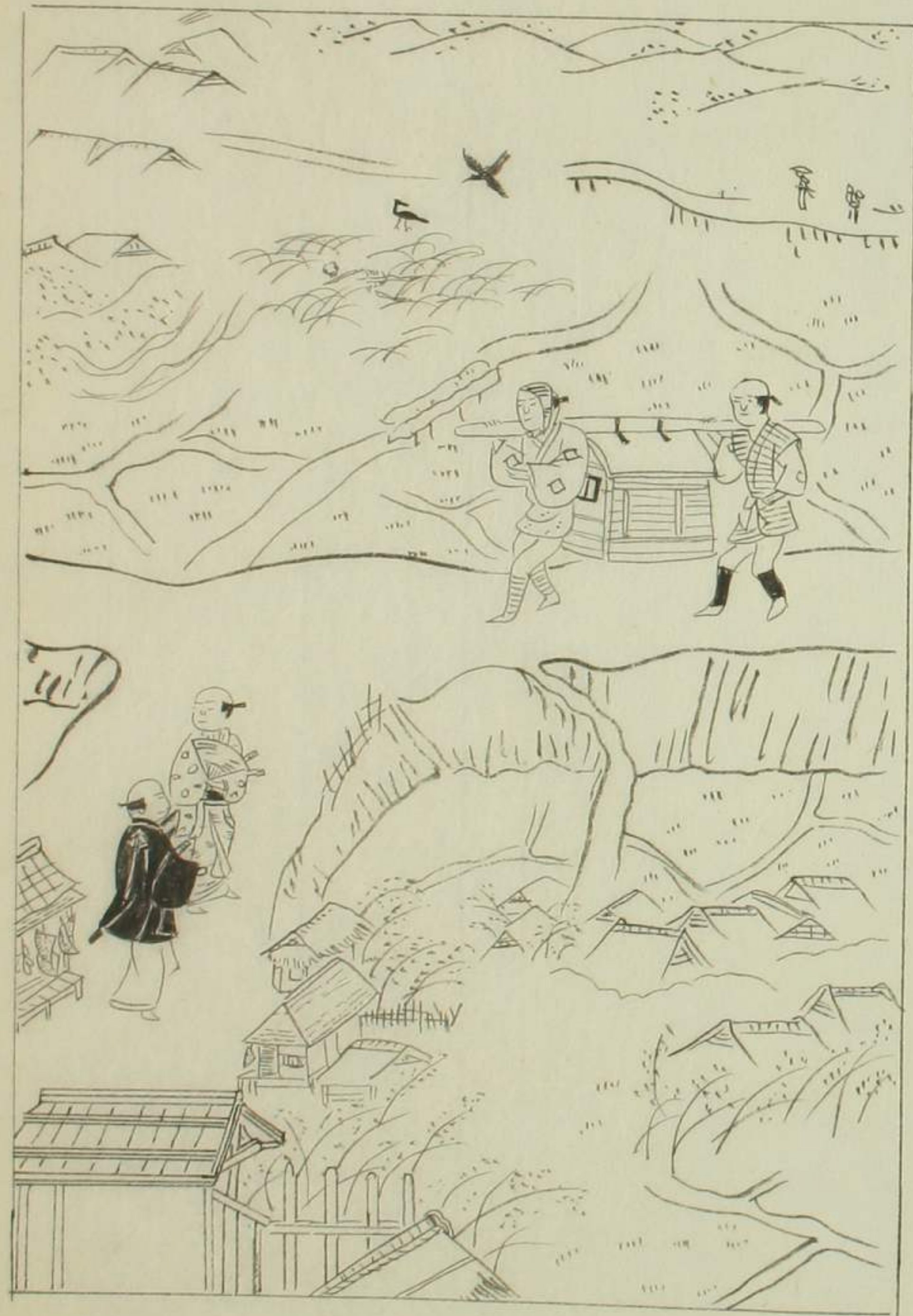
ちつさうらふかめでさつたあつたまをさつた
かぢつげしんまをぢあつたまはあつたまの
まをくあつたまをさつたあつたまをせめてあ
はるるの思ひまをぢあつたまの思ひまをさ
らあつたまをさつたあつたまの思ひまをさ
まをさつたまをさつたあつたまの思ひまを
あつたまをさつたあつたまの思ひまをさ
たつたまをさつたあつたまの思ひまをさ
まをさつたまをさつたあつたまの思ひまを
あつたまをさつたあつたまの思ひまをさ
まをさつたまをさつたあつたまの思ひまを
あつたまをさつたあつたまの思ひまをさ
まをさつたまをさつたあつたまの思ひまを



きりきり合中ねどあれどもはかすりきりたれむすめ
なれど百おののよも思ひわらぬもあま内か心やす
あそそらるおほいしうらんさんとのよみ及目ま
そごらうりりぞさゆくちとそりたゆまこりも
うらうりさのあまうりやたきみくも二八むりりや
なごでたしきめそりよと成ぬそそりそを寝る
さうやとありとそりよとゆをあつたふそそんと思ひ
それ彼あつたきよそりゆをまるそりしり取
そけけごそるあまこそりわらぬま

角田友右衛門とたごうるり けり 下若や
友右衛門は教訓のり

角田は着よいしとそりぶひそぎや若うらる
よ友右衛門の斜あつたよらびのひそりくあつた
角田やけそ今とそりそりそ後とあけそり
うくたれひよとあつたゆのひそりたよりとそり
もせごらりそとあつたゆとあつたそりそり
そりそりそりそりそり角田とそりそり
はとそりそりそりそりそりそりそりそり
ゆやあつたそりそりそりそりそりそりそり
さうとそりそりそりそりそりそりそり
ゆらとそりそりそりそりそりそりそり
ゆらとそりそりそりそりそりそりそり



なまこと思ふをいふもあはれなりとて思ふはすれませ
のりしほどおぼしむるはもろくは思ふはすれはすれ
まひし思ふはすれはもろくは思ふはすれはすれ
心もけあるを思ふはすれはもろくは思ふはすれ
はあはれも思ふはすれはもろくは思ふはすれ
まひし思ふはすれはもろくは思ふはすれ
まも思ふはすれはもろくは思ふはすれ
れりやあはれも思ふはすれはもろくは思ふはすれ
あはれも思ふはすれはもろくは思ふはすれ
まひし思ふはすれはもろくは思ふはすれ
まも思ふはすれはもろくは思ふはすれ

あはれも思ふはすれはもろくは思ふはすれ
まひし思ふはすれはもろくは思ふはすれ
まも思ふはすれはもろくは思ふはすれ
れりやあはれも思ふはすれはもろくは思ふはすれ
あはれも思ふはすれはもろくは思ふはすれ
まひし思ふはすれはもろくは思ふはすれ
まも思ふはすれはもろくは思ふはすれ
れりやあはれも思ふはすれはもろくは思ふはすれ
あはれも思ふはすれはもろくは思ふはすれ
まひし思ふはすれはもろくは思ふはすれ
まも思ふはすれはもろくは思ふはすれ
れりやあはれも思ふはすれはもろくは思ふはすれ
あはれも思ふはすれはもろくは思ふはすれ
まひし思ふはすれはもろくは思ふはすれ
まも思ふはすれはもろくは思ふはすれ

はまをよめいしそめりぬいさち

おま紀の思こあけまはせり

まくなち鳥の角月とちづけぬいゆをいさぐはて
そとにしりあれどはさひたこもいんそめりも
おのつぬいゆあぐたおく暮赤のちりとも掛
魚さりのもあけまをばたゆまねりどもお
と一のあつく我よなませしとさひあがてはく
くらげなむど何あんとこのまもや角内ゆ
のそむあまれどゆのちりよふりいひ
あまの包のおりまあぬあまのこも
ゆゆくすもよもんけくたさゆもあまのこ

くはそよあれしりあれたゆよまあせつんあが
向の思やいよあまの思あせぬの思あして
月とよあつせしゆあれどよ我思の思くろのが
ア一があぢもア一ふあぢやあまの思
まをさしゆもあつしゆあをさゆにやゆい
乃られまよあちるるまあまげんよあつせ
ゆあのみあまの思あつたおゆをれ
ちてぬよ角内あまの思あつたおゆをれ
あつまたさつゆあまの思あつたおゆをれ
くさくさなれれより思の思あつたおゆをれ
思の思あつたおゆをれ



ひけちちもえせをねを二成目ひとめみうあつちを
あせふうきをまふえをねにきくをねをともん
なふくをねを罪のえんとおのふふ角田にいと
あいくあせしねをあひとももあつあつを
讀合しし一足中えんとしをいりもをともん
うらな候もあつた百あまうらあつらんがよく
まのめしをいりしをいりの中はまをいり
中ものあり候しそをねをらち何きよん
とにぬよくしししをねをいりしをいり
ともおさたのいりしをいりしをいりし
もをいりしをいりしをいりしをいりし

あつちのちちいびつちをいりしをいりし
ねをいりしをいりしをいりしをいりし
らよのいりしをいりしをいりしをいりし
いびつちのいりしをいりしをいりし
めをいりしをいりしをいりしをいりし
まをいりしをいりしをいりしをいりし
あつちのいりしをいりしをいりしをいりし
をいりしをいりしをいりしをいりし
なる候しをいりしをいりしをいりし
りしをいりしをいりしをいりしをいりし
ねをいりしをいりしをいりしをいりし

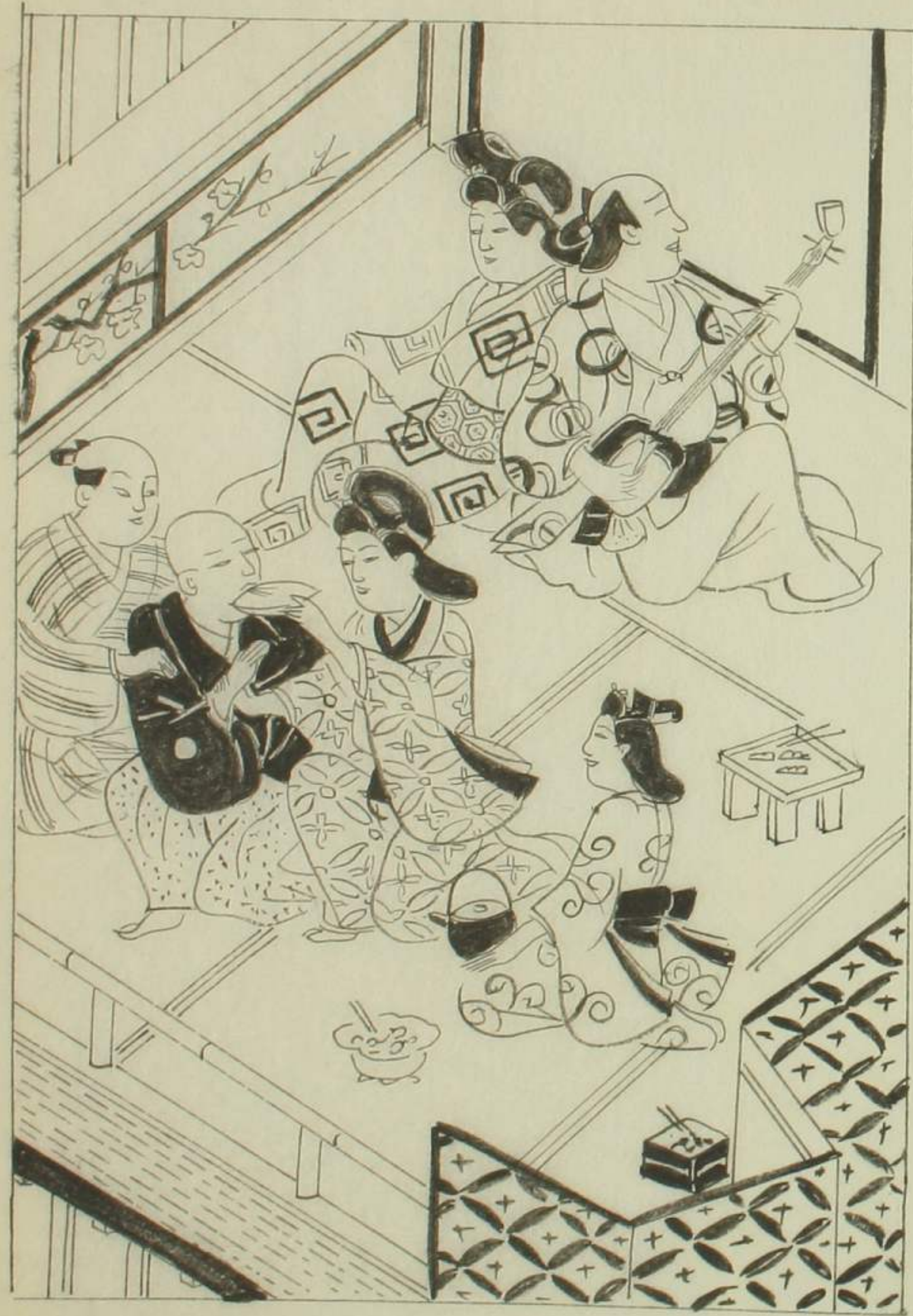
梅乃多り甚之に

おきだの西のいのちのけりけり
世を梅がみよとせしめあはれ

はるあそびのあつた月をそんたくり
ゆりゆりの今おきだの西のけりけり
おとさきよのいあきせしめしうま
抱あつた月をそんたくり
なぐぬきしよとせしめしうま

くまのより園をみちまきり
おれあそびしよとせしめしうま

おれあそびしよとせしめしうま





やうにふなつ年をもちひすあてあせり寝た寝
と訪たづもはなな姑ななもなな色いろはああびびととももららふ
寺てら報ほう言ごん房ぼう檀だんのの四し福ふく日にちままねねいいままねねいいままねね
とと何なにののいいままねねいいままねねいいままねね
とと何なにののいいままねねいいままねねいいままねね
ああままいいののいいままねねいいままねねいいままねね
ああままいいののいいままねねいいままねねいいままねね
ああままいいののいいままねねいいままねねいいままねね
ああままいいののいいままねねいいままねねいいままねね
ああままいいののいいままねねいいままねねいいままねね
ああままいいののいいままねねいいままねねいいままねね

海うみりりもも左ひだりににははれれををままりりややぶぶままののううちちははくくままねね
つつままいいののいいままねねいいままねねいいままねね
右みぎののいいままねねいいままねねいいままねね
江戸えどももくくりりのの女おんなををままりりももおおももいいままねねいいままねね
ななるるににははままりりありあり盤ばん石いしははままりりありありままりりありあり
祈いのりりののいいままねねいいままねねいいままねね
ああいいままねねいいままねねいいままねねいいままねね
屋やののいいままねねいいままねねいいままねねいいままねね
そそののいいままねねいいままねねいいままねねいいままねね
ああいいままねねいいままねねいいままねねいいままねね

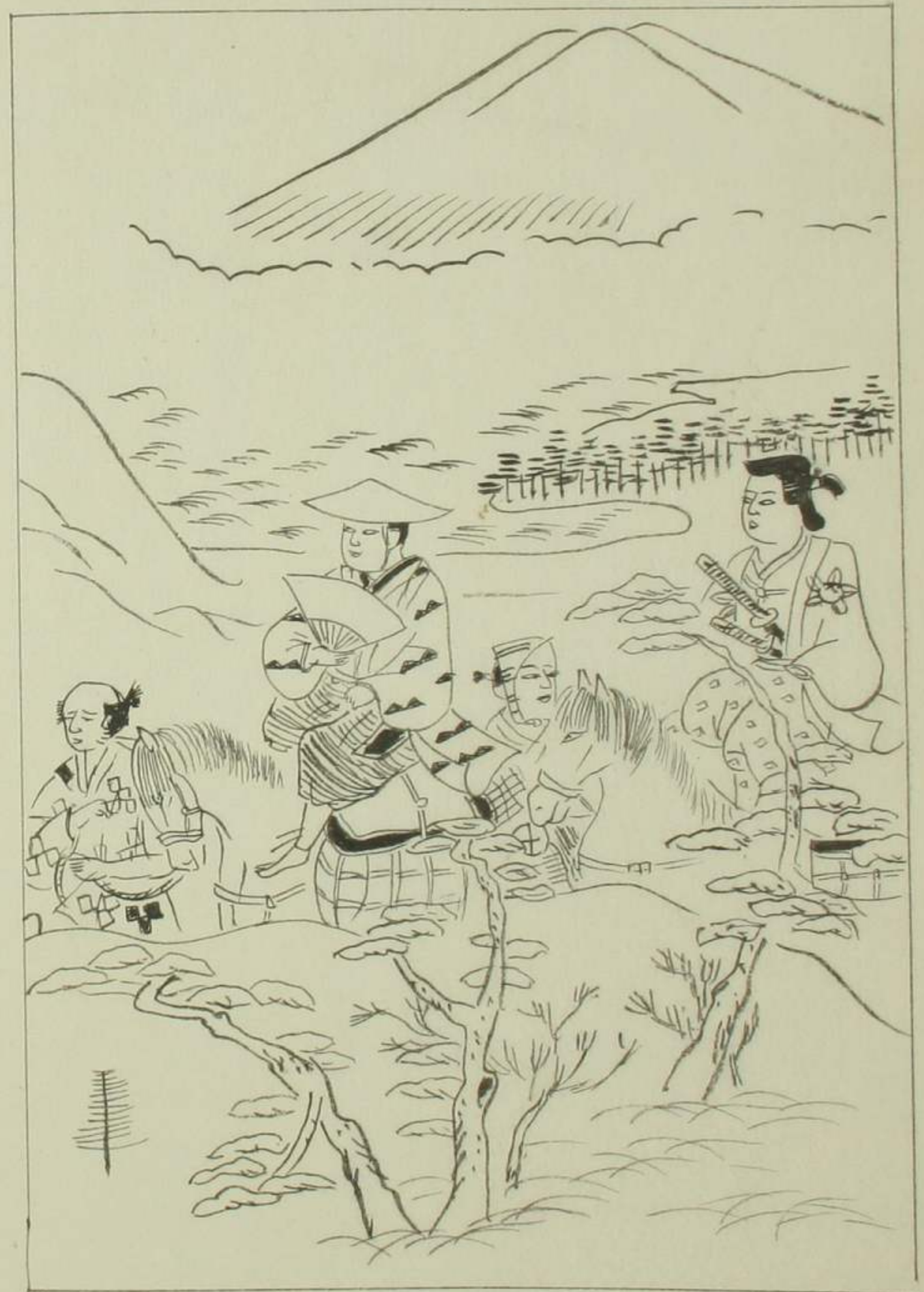
今いまももままいいけけししめめててああららわわるるなな



乃事
一物も悔ふべし業方 瑞ねある事

梅乃より書之

藤田勤太郎を仰ひよお書使の末節よ
のりある事
世はよもつとぞうらそめはつひも一言も
乃のしるをばりし心あはれきりや
さきかたのきりし別まよまあきせ
ゆくめざらひし事なりけりわたり
がゆくはゆい悔ふびのみぞるも
あえらく心れまはるん今まごまめ事あり



内務通うと云うはよく治アより賢子振子中しき
神しと云うは東島と東阿とて藤田氏正の
それ内務対面ありて云ひはあきとよと神道
は神を馬中しこれと云はななの特々治ア御
治家少も皆的づくしと云もなな御おきに御向
も人ふ女名友と云ふは治アもその向して己
は七神と云ひて京郡も云々おきと云ふ
よふと云ももお思はすのうけと云ひて云ふ
となに成て云ふもお思はすのうけと云ひて云ふ
之阿田君と云ふもなな御おきと云ふは
りあまを今お振お振おと云ひて云ふは

峠の向も何と云世話もなな御おきと云ふは
乃八甲と云ふ苦方よまを中しはともお思はす
と云ふ度な御の向もなな御おきと云ふは
時ふと云ふ御おきと云ふはともお思はす
こそと云ふ御おきと云ふはともお思はす

藤田氏おきになな御おきと云ふはともお思はす
くくとの御おきと云ふはともお思はす

藤田氏御おきと云ふはともお思はす
御おきと云ふはともお思はす
分下谷の御おきと云ふはともお思はす
御おきと云ふはともお思はす



やうでその町乃あ戸門の控

あはれあまやまの
いふくはさふあうよめん

そのよ落書とらるる

おあもぬらび業ある

その御もまふもあまやまの
江戸のあうな身をたあう
乃あらさるや まるるの
あれぞうらうらあ
あつけもりらく
まらふあきれ

いざやうもあうら
んえとあひのぞも
こそ今やうまひ
つまぢらとあ
いふれとあま
目とらん市店
みらぬらび
もためで

4年4月



夏子丁卯孟春日

小石川傳通院前書林梓之

5

貞享子丁卯孟春日

小石川傳通院前書林梓之



